

考古学研究室報告

第 40 集

I 上天草市所在遺跡の調査報告 1

第 1 部 千崎古墳群第 2 次・第 3 次調査報告

第 2 部 長砂連古墳石障実測調査報告

第 3 部 柳貝塚採集資料報告

II 河原第 3 遺跡 4・河原第 6 遺跡 1

2004 年度 考古学研究室の足跡

2 0 0 5

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：千崎古墳群箱式石棺実測調査風景（13号墳）
裏表紙写真：長砂連古墳左石障左側直弧文

序 文

2004年は、熊本大学が国立大学から国立大学法人熊本大学となって初年であり、なにもかもが戸惑いのなかで過ぎ去ろうとしている。そうしたなかで従前と最も違うことは、研究室費が総額で半分以下に縮小されたことである。熊本大学に奉職して以来、考古学実習においては、発掘から整理・報告書作成まで単年度でおこない、考古学資料の扱い方の実践的訓練を学生に施すことを試みてきた。その結果、『考古学研究室報告』として昨年度まで39集刊行することができ、この間多数の有為な人材を世に送り出すことができたことは、熊本大学の社会的役割として十分に評価されるものであった。

こうした状況の中で、偶々、杉井さんと私が上天草市史大矢野町編の編纂に携わることとなり、市史編纂事業の一環として上天草市所在の千崎古墳群・長砂連古墳の調査を行って、かろうじて従来どおり研究室の教育方針を貫くことができた。これら調査にご協力いただき、『上天草市史大矢野町編資料集』の第1冊として発行された報告書を研究室報告に転載する御許可をいただいたことに対して、上天草市関係各位の御尽力に深甚の謝意を表します。柳貝塚の資料報告を掲載したのもそうした事情によるものである。

この他に、小畑さんを中心として永年研究室が取り組んでいる阿蘇での旧石器時代細石刃文化期の報告も併せて研究室報告の第40集とした。河原第3遺跡は旧石器時代文化の動態的把握に格好の資料を提供するものであり、近々最終報告書を作成してその成果を世に問う運びである。

本書は、大学院生の中村・南・森の3名がインターンシップとして、シモダ印刷で直接取り組んだものが下敷きとなっている。自分自身が直接に印刷業務に携わり、その製作工程を熟知することで、原稿段階でどうすれば優れた報告書が作成可能であるかを考えるきっかけとなることを念じている。多忙なおりにインターンシップを引き受けていただいたシモダ印刷の各位にも厚く御礼申し上げます。

2005年3月1日

甲元眞之

I 上天草市所在遺跡の調査報告 1

例 言

1. 本書は、熊本県上天草市所在遺跡を対象とした考古学調査の報告であり、『上天草市史大矢野町編資料集1』（上天草市発行、2005年）の別刷である。その内容は、千崎古墳群の測量・発掘調査報告、長砂連古墳の石障実測調査報告、柳貝塚採集資料の報告からなる。

2. それぞれの遺跡・調査についての詳細は以下の通りである。

【千崎古墳群】

- (1) 千崎古墳群は、熊本県上天草市大矢野町維和千崎3080・3081番地他に所在する。
- (2) 調査は2003年4月26日から29日、2004年3月16日から23日、2004年4月24日から5月1日、2004年8月31日から9月16日の4回に分けて行われた。
- (3) 調査主体は上記4回のうち前2回が大矢野町教育委員会、後2回が上天草市教育委員会である。
- (4) 調査担当者は上記4回のうち前2回が杉井健（熊本大学文学部助教授）と西嶋剛広（同文学研究科大学院生）、後2回が杉井と森幸一郎（同文学研究科大学院生）である。
- (5) 上記4回の調査以前に、熊本県立玉名高等学校による調査が1955年に実施されている。それを含めて、次のように調査次数を整理する。

第1次調査 期間：1955年8月21日～24日・9月12日～15日

内容：分布調査・発掘調査

第2次調査 期間：2003年4月26日～29日、2004年3月16日～23日・4月24日～5月1日

内容：現状確認調査・測量調査

第3次調査 期間：2004年8月31日～9月16日

内容：発掘調査・石棺の現状実測調査

- (6) 千崎古墳群に関するレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標（2系）の北を示す。
- (7) 報告書抄録に示した北緯と東経は、測量基準点S E 01の世界測地系による数値である。
- (8) 土層名の色調は『新版標準土色帖』によった。
- (9) 図版1に掲載の写真は、米軍撮影の空中写真（1948年2月22日撮影）である。
- (10) 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関から多くのご協力とご援助を賜った。和田誠治・四丸浩二（上天草市史大矢野町編纂室）、山崎勝安（伐採）、村崎盛之（虎屋：第2次調査宿舎）、逸見泰久（熊本大学合図マリンステーション：第3次調査宿舎）、児玉公道（熊本大学大学院医学薬学研究部）、中橋孝博（九州大学大学院比較社会文化研究院：人骨の調査）、竹田宏司（玉名市教育委員会）、牧野吉秀・荒木純治（玉名市立歴史博物館）、杉村彰一、古城史雄（熊本県教育委員会）、高木恭二（宇土市教育委員会）、山崎純男（福岡市教育委員会）、上天草市大矢野公民館、上天草市維和出張所
- (11) 調査参加者は以下の通りである（所属は当時）。

第2次調査（2003年4月）：甲元眞之・杉井健（熊本大学教官）、西嶋剛広（同文学研究科修士課程1年生）、原香織・牧野幸子（同文学部2年生）

第2次調査（2004年3月）：甲元眞之・杉井健（熊本大学教官）、新里亮人（同社会文化科学研究科博士課程2年生）、檀佳克（同文学研究科修士課程2年生）、芝康次郎・西嶋剛広（同文学研究科修士課程1年生）、壹岐尾可奈子・児玉幹・三宮慶太・末永浩平・前田真由子・松ヶ野恵（同文学部3年生）、島津屋寛・原香織・牧野幸子（同文学部2年生）、西山絵里子

第2次調査（2004年4・5月）：甲元眞之・杉井健（熊本大学教員）、金姓旭・芝康次郎・西嶋剛広（同文学研究科修士課程2年生）、中村友昭・南健太郎・森幸一郎（同文学研究科修士課程1年生）、今村結記（同文学部研究生）、児玉幹・末永浩平・前田真由子・松ヶ野恵・仙波靖子（同文学部4年生）、島津屋寛・西山絵里子・原香織・牧野幸子（同文学部3年生）、清水恒志・高平愛子・津田勇希・平野直己（同文学部2年生）

第3次調査（2004年8・9月）：甲元眞之・木下尚子・杉井健（熊本大学教員）、芝康次郎・西嶋剛広（同

文学研究科修士課程2年生)、中村友昭・南健太郎・森幸一郎(同文学研究科修士課程1年生)、今村結記・サウセド=瀬上=ダニエル=ダンテ(同文学部研究生)、壺岐尾可奈子・神川めぐみ・児玉幹・末永浩平・前田真由子・松ヶ野恵・仙波靖子(同文学部4年生)、島津屋寛・西山絵里子・原香織・牧野幸子(同文学部3年生)、清水恒志・高平愛子・津田勇希・平野直己(同文学部2年生)

(12) 写真撮影については、調査参加者全員が担当したが、とくに牧野が中心的な役割を果たした。

【長砂連古墳】

- (1) 長砂連古墳は、熊本県上天草市大矢野町中長砂連6554番地に所在する。
- (2) 石障実測調査は2004年8月31日から9月16日に行われた。
- (3) 調査主体は上天草市教育委員会である。
- (4) 調査担当者は杉井健(熊本大学文学部助教授)と南健太郎(同文学研究科大学院生)である。
- (5) 長砂連古墳に関する方位は磁北を示す。石障実測時のレベル高は、石障が本来の位置を留めていないと判断されるため、任意の水平線を基準とした。
- (6) 報告書抄録に示した北緯と東経は、世界測地系(国土地理院ホームページ地形図閲覧システム)によるものである。
- (7) 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関から多くのご協力とご援助を賜った。和田誠治・四丸浩二(上天草市史大矢野町編纂室)、貝川徳治郎(石室入口の鍵の管理・調査環境の改善)、逸見泰久(熊本大学合図マリンステーション:宿舎)、比佐陽一郎(福岡市埋蔵文化財センター:鉄器のX線撮影)、村上恭通(愛媛大学法文学部:鉄器のX線撮影)、橋本達也(鹿児島大学総合研究博物館)、鈴木一有(浜松市教育委員会)、林田和人(熊本市教育委員会)、古城史雄(熊本県教育委員会)、高木恭二(宇土市教育委員会)、山崎純男(福岡市教育委員会)、上天草市大矢野公民館、上天草市維和出張所、福岡市埋蔵文化財センター、愛媛大学法文学部考古学研究室
- (8) 調査参加者は以下の通りである。

甲元眞之・木下尚子・杉井健(熊本大学教員)、芝康次郎・西嶋剛広(同文学研究科修士課程2年生)、中村友昭・南健太郎・森幸一郎(同文学研究科修士課程1年生)、今村結記・サウセド=瀬上=ダニエル=ダンテ(同文学部研究生)、壺岐尾可奈子・神川めぐみ・児玉幹・末永浩平・前田真由子・松ヶ野恵・仙波靖子(同文学部4年生)、島津屋寛・西山絵里子・原香織・牧野幸子(同文学部3年生)、清水恒志・高平愛子・津田勇希・平野直己(同文学部2年生)

なかでも、現地での実測作業では、南と平野が中心的な役割を果たした。

(9) 写真撮影については、現場写真を芝と南、ダニエル、牧野、平野が、遺物写真を牧野がおもに担当した。

【柳貝塚】

- (1) 柳貝塚は、上天草市大矢野町中柳に所在する。
- (2) 今回報告するのは、上天草市大矢野公民館に展示されている故徳永公路氏採集資料・福田正文氏採集資料、および熊本大学文学部考古学研究室保管資料である。
- (3) 整理作業者は以下の通りである。
芝康次郎(熊本大学文学研究科修士課程2年生)、荒木隆宏(玉名市教育委員会)、新里亮人(2003年度熊本大学社会文化科学研究科博士課程2年生)、宮本千恵子・上野平優紀・望月大輔(熊本大学卒業生)

3. 本書の監修は杉井が、編集は第1部を森、第2部を南、第3部を甲元が担当した。執筆分担については執筆者名をそれぞれの文末に示した。

本文目次

第1部 千崎古墳群第2次・第3次調査報告	1
一 位置と環境	3
1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	3
二 調査経過	8
1. 過去の調査（第1次調査）	8
2. 第2次調査	9
3. 第3次調査	12
三 古墳群の構造	13
1. 古墳群の現状	13
2. 古墳の分布状況	13
3. 各古墳の構造	18
四 発掘調査の成果	30
1. 5号墳	30
2. 6号墳	32
五 まとめ	34
1. 古墳群の立地と調査に至る経緯	34
2. 調査の成果	34
3. 古墳群の評価と今後の課題	36
第2部 長砂連古墳石障実測調査報告	39
一 位置と環境	41
二 調査経過	42
1. 古墳の発見	42
2. 今回の調査	42
三 調査成果	43
1. 古墳発見時の状況と現状	43
2. 石障実測の方法	43
3. 石障の構造	43
四 過去の出土遺物	48
1. 鉄器	48
2. 土器	48
五 まとめ	49
1. 古墳の現状と調査に至る経緯	49
2. 調査の成果	49
3. 古墳の評価	49
第3部 柳貝塚採集資料報告	51
一 資料報告に至る経緯	53
二 位置と環境	53
三 採集遺物	54
1. 土器	54
2. 土製品	55
3. 石器	55

図 版 目 次

千崎古墳群

- 図版 1 上空からみた維和島（1948年2月22日米軍撮影、千崎古墳群は維和島北端の丘陵上に存在）
- 図版 2 1 8号墳の現状（西から）
2 9号墳の現状（北から）
3 10号墳の現状（北から）
4 9・10号墳の並列状況（右が10号墳、南から）
- 図版 3 1 13号墳の現状（南東から）
2 15号墳の現状（西から）
3 16号墳の現状（北東から）
4 17号墳の現状（南から）
- 図版 4 1 20号墳の現状（北東から）
2 20号墳箱式石棺の墓壙断面（南東から）
3 22号墳の現状（南西から）
4 22号墳箱式石棺の副室（南西から）
- 図版 5 1 5号墳調査前の状況（北から）
2 5号墳調査前の状況（南から）
3 5号墳の竪穴式石室（南から）
- 図版 6 1 6号墳調査前の状況（北から）
2 6号墳地山上の土層堆積（北東から）
3 発掘調査後の6号墳（西から）

長砂連古墳

- 図版 7 1 長砂連古墳の現状
2 石障の現状
3 奥石障
4 前障
- 図版 8 1 左石障
2 左石障左側の直弧文・中央の同心円文
- 図版 9 1 右石障
2 右石障左側の直弧文
3 右石障中央の直弧文
- 図版10 1 右石障右側の直弧文
2 鉄銚の袋部
3 鉄銚の刃部片・鉄刀片・不明鉄器
4 土師器

挿 図 目 次

千崎古墳群

第1図	千崎古墳群の位置	(清水製図)	3
第2図	八代海沿岸の古墳分布図 (アミは標高100m以上を示す)	(西山製図)	4
第3図	大矢野島・維和島周辺の遺跡分布図 (アミは標高20m以上を示す)	(西山製図)	5
第4図	1955年作成の古墳分布図 (田辺1955 a より)	(松ヶ野製図)	8
第5図	1955年の10号墳調査風景 (坂本1971より)		8
第6図	千崎古墳群測量基準点の位置関係 (国土座標による)	(高平製図)	11
第7図	現地説明会風景 (第3次調査)		12
第8図	千崎古墳群所在丘陵の地形測量図 (1/800)	(原製図)	15・16
第9図	千崎古墳群の古墳分布図 (1/1600)	(原製図)	17
第10図	1号墳の現状 (南東から)		18
第11図	2号墳の現状 (北から)		18
第12図	3号墳の現状 (北から)		18
第13図	4号墳の現状 (北から)		18
第14図	7号墳の現状 (西から)		19
第15図	8号墳箱式石棺現状実測図	(森製図)	19
第16図	9・10号墳位置関係図	(仙波製図)	21
第17図	9号墳箱式石棺現状実測図	(仙波製図)	21
第18図	10号墳箱式石棺現状実測図	(仙波製図)	21
第19図	11号墳の現状 (北東から)		22
第20図	12号墳の現状 (南西から)		22
第21図	13号墳箱式石棺現状実測図	(児玉製図)	22
第22図	14号墳の現状 (北東から)		23
第23図	15号墳箱式石棺現状実測図	(森製図)	23
第24図	16号墳箱式石棺現状実測図	(牧野製図)	24
第25図	17号墳箱式石棺現状実測図	(高平製図)	24
第26図	18号墳の現状 (北から)		24
第27図	19～21号墳の位置関係 (手前が19号墳、南西から)		25
第28図	20号墳箱式石棺現状実測図・墓壙断面図	(島津屋製図)	25
第29図	21号墳箱式石棺現状実測図 (アミは原位置の石棺材)	(老岐尾製図)	26
第30図	21号墳の現状 (北東から)		26
第31図	22号墳箱式石棺現状実測図	(前田製図)	27
第32図	23号墳の現状 (南東から)		28
第33図	24号墳の現状 (南西から)		28
第34図	25号墳箱式石棺現状実測図	(津田製図)	29
第35図	25号墳の現状 (東から)		29
第36図	26号墳の現状 (北から)		29
第37図	26号墳の現状 (西から)		29
第38図	5号墳調査前実測図	(森製図)	30
第39図	5号墳竪穴式石室平面図・断面図	(島津屋製図)	31
第40図	6号墳調査前実測図	(今村製図)	32
第41図	6号墳発掘区平面図・断面図	(仙波製図)	33

長砂連古墳

第42図	長砂連古墳の位置	(清水製図)	41
第43図	長砂連古墳周辺の地形	(清水製図)	41
第44図	発見時の長砂連古墳石室見取図(下林1984より)		42
第45図	斎藤忠・乙益重隆作図の石障実測図(斎藤1973より)		42
第46図	発見時の石障(坂本1971より)		43
第47図	以前の右石障(乙益1964より)		43
第48図	以前の左石障(乙益1964より)		43
第49図	石障実測図	(南製図)	44
第50図	直弧文実測図・拓影(上:右石障、下:左石障)	(南製図)	45
第51図	鉄銚・鉄刀実測図	(牧野製図)	48
第52図	土師器実測図	(平野製図)	48

柳貝塚

第53図	柳貝塚の位置	(荒木製図)	53
第54図	土器実測図(1)	(荒木製図)	56
第55図	土器実測図(2)	(荒木製図)	57
第56図	土器実測図(3)	(荒木製図)	58
第57図	土製品実測図	(荒木製図)	58
第58図	石器実測図(1)	(芝製図)	61
第59図	石器実測図(2)	(芝製図)	62
第60図	石器実測図(3)	(芝製図)	63
第61図	石器実測図(4)	(芝製図)	64

表 目 次

千崎古墳群

第1表	新規古墳番号と1955年付与番号の対応関係	(杉井作成)	9
第2表	千崎古墳群測量基準点の現場座標	(杉井作成)	10
第3表	千崎古墳群測量基準点の国土座標(世界測地系)	(杉井作成)	10
第4表	千崎古墳群所在古墳の概要	(森作成)	35
第5表	千崎古墳群所在箱式石棺の特徴	(森作成)	35